

令和7年度「#あおばな in 青森若葉養護学校」開催概要

県内の高校生の皆さんに、知事との意見交換を通して県政を身近に感じてもらうとともに、新鮮な意見・発想や県政に対する期待等を把握し、開かれた県政の推進と今後の県政運営の参考にするため、県民対話集会「#あおばな～青森・未来・対話～」を下記のとおり開催しました。

○日時：令和7年9月18日（木）10：00～11：20

○場所：県立青森若葉養護学校 アリーナ

○参加生徒：21名（高等部9名、中学部12名）

＜生徒との意見交換＞

知事と生徒の皆さんが以下の内容について対話しました。

- ①障がい者や養護学校に対する理解促進
- ②線維筋痛症などの難病の周知啓発
- ③学校へのグラウンドの整備
- ④障がい者雇用の促進

※知事から生徒の皆さんへのコメントの一部を紹介します。

- ・来年、青森県で開催される国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会を契機に、県民の方々の障がいへの理解が深まることを期待しているし、病気や障がいを自分ごととして捉えられて、みんながお互いに尊重しながら生きていける青森県になってほしいという思いがある。
- ・様々な病気や障がいを抱えている人たちがいることが前提だと思えば、いろんな違いや多様性が認められて、それが強い社会を作っていくと思う。
- ・たくさん勉強して、就職して、障がいを抱えながらもこれだけ頑張れるんだということを後輩たちや世の中に見せてもらいたい。それが、病気への理解と障がいを理由とした差別の解消に繋がっていくと思う。
- ・人口減少によりあらゆる分野で人手不足になると、今後は雇用が増えていくと思う。できることを増やししながら、雇用が増えたときに向き合っていけるように頑張してほしいと思うし、私自身も雇用が増えるように頑張っていく。
- ・生きていく中ではいろんな壁に当たると思うが、その壁を乗り越えて新しい未来をつくっていくためには、対話が大事。今日、対話をして学んだことをこれからも大切にしていけることで、これからの皆さんの未来が明るくなってほしい。

